

南極から地球がみえる —記者サロン 南極シリーズ—

紙面やデジタルの記事に登場する人をゲストに招き、記者が記事で書ききれなかったことや取材を通して感じたことを語り合う。オンライン記者サロンは、そんなコンセプトで多様なテーマで開催を重ねてきました。なかでも開催頻度が最も高く、好評を得ているのが、ネットワーク報道本部の中山由美記者による南極・北極シリーズです。

中山記者は2019年11月から2021年2月まで、南極越冬隊に同行取材しています。彼女が現地で撮りためた美しい写真と映像は紙面やデジタルでも発信されていましたが、さらに生かす方法はないかと、イベント戦略事務局（当時）が月1回記者サロンを開くことを提案したのが始まりでした。アデリーペンギンやアザラシの生態、夜空に広がるオーロラ、1カ月以上続く白夜と極夜、時折襲ってくる強烈なブリザード……。2021年度は6月から翌3月まで計9回、記者サロン「南極から地球がみえる」を開き、中山記者が毎回50~60枚に及ぶ写真や動画を紹介しながら、国立極地研究所などの専門家とともに昭和基地での観測や生活について語りました。視聴者から多くの質問が寄せられ、事後アンケートでは9割超という高い満足度を記録しました。



2022年度には、総合プロデュース本部（当時）と連携し、学校現場で教材として使ってもらうことを意識した記者サロンの制作に挑戦。「南極記者“ゆみねえ”と考えるSDGs～未来はっけん！地球探検」と題して、15分の番組を計6本収録し、6月から7月にかけて毎週1本ずつ配信しました。また、9月にイベ戦が手がけた展示会「GOOD LIFE フェア」のステージで中山記者とさかなくんが対談した模様を、動画撮影にたけた部員らが収録し、後日記者サロンとして配信し、2023年5月にも販売局が企画した中山記者のリアル講演会をイベント運営1部員らが収録して後日配信しました（写真左上）。そして7月には、海洋環境を観測して温暖化の影響などを探るため、北極海へ向かった北海道大学水産学部の練習船「おしよろ丸」に中山記者が乗船。出発する直前に北大准教授をゲストに招き、注目が集まる北極観測や航海の計画を記者サロンで紹介しました（写真右上）。

南極・北極を通して地球環境について考える中山記者の記者サロンは、2年間で約20本配信し、申込者数は延べ約14000人にのぼっています。イベント運営1部では、今後も人気定番コンテンツの一つとして、編集局をはじめ各部局と連携しながら、魅力的な何曲・北極コンテンツの見せ方など工夫を凝らしていきたいと考えています。